山鳥は声ちらく見るまく来ちれるか　周来
門の戸も明るしむかう雪の宿　たつ女
竈男中麦を探られて宵や是　仙市
柳ぬれて家鴨もかくや春遅し　亀住
隅よりも汚さぬ鳥や濡らさず焚　常之
菊売も宿てしのあし小隅たち　ちさ女
むそひより水あかれそや庵の年　啓山
気咲きる梅の小枝も無くろめ　蘆物
一葉けし枝もそのまゝ墨田川　宝令

老ましき紀日ころ時うまくいる人のもまくのすいかけるいぬにはあしくは

並ぬ事やうらうら流しそ夜すの大　封中
花さや女危流の草を垣にと手　雄令
さ川浦白小城の野のいつ下としの　守三
すくとも見ぬまく草まな平生　すもの山
梅くもの峰よりふるや神無月　木光
新よるもさき川おつ芒すゝき　玉光
冬さもさ日をさはなかまたされ　然鸞雪
蝶の日や五月居さて能の代　子往 鯉隠
山茶花の朽しか中にむ椿の宿　琴至
浮しきまく気からさまや浪の子　大津 還古
あくまのいかでいふもあや雲の気　亀有 語中
雄の蝶らなくしくれ色の船　居住 逸人

丙子冬

むかしやらしや遊子火宅を
の南に似て墨田川のみなもと
ちか...
まを...
青の...
...
...
草堆...
周地の...

鶯もまだ...暁河
梅が香も...春の...
松の...石捷
隅田川...鴨の留守　菊塢